

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 くさぶえ)

事業所番号	0671500288		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	平成30年 9月 6日	開設年月日	平成15年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内や近隣の祭り、催し物などやその方にとって馴染みの場所に出掛ける機会を多く持ち、畑での収穫やその収穫物での調理を通して季節を感じ、その方の生活スタイルに合ったその人らしい暮らしが送られるように配慮しています。法人に4つのグループホームがある利点を活かし、お互いに訪問し合う事で、ご利用者や職員の交流を図り、閉鎖的にならないような工夫をしています。又、職員を対象とした所内研修や外部研修への参加を奨励するなど、最新の認知症介護について学びを深める機会を持ち、介護現場に活かして行くよう努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 10月 22日	評価結果決定日	平成 30年 11月 13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

障子戸や炬燵を設え、在宅と変わらない家庭的な環境で利用者達は思い思いに寛いでいます。同じ家族として暮らす中、利用者からの提案で「ただいま〜」「おかえり〜なさい」「いってきます」「いってらっしゃ〜い」の言葉が自然に交わされ、職員も利用者の思いを大事に受け止め笑顔をもらい、時に管理者は「おかあさん」と呼ばれるほど信頼関係を深めています。季節の外出や利用者の望みを叶える「特別な日」を企画し、地域ボランティアの協力をもらいながら、更に情報を発信し地域と相互交流を深めて共生を目指している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でお一人お一人がその方らしい生活を続ける事を支える為、職員の思いを取りまとめ、事業所内に理念を掲示している。又、ネームプレートにも入れており、時折確認しながら各自意識付けを行っている。スタッフ会議などでも理念に添ったケアが出来ているか確認している。	理念の他に姿勢や目標を「職員の思い」として表し、名札に携帯し忘れることなく実践している。利用者の思いを大事にまずは受け止めどうしたら実現できるかユニット会議で話し合い、楽しい笑顔あふれるアットホームな環境を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やお祭りへ参加したり、地元の個人宅への雛人形飾りを見に伺った。地元婦人会の方々や地域の方に来訪して頂き、郷土料理と一緒に作ったりした。又、定期的に地域の方にお抹茶の会を開催して頂いている。外出の際はボランティアとして同行して頂いている。GHの芋煮会や忘年会には、推進委員の方や市職員にも毎年、参加頂いている。	地域とは運営推進会議を通して情報交換やボランティア要請等で連携し、災害協定を交わすなど相互に理解協力が得られている。地区行事に利用者や職員が参加して交流を図り、季節の外出やお抹茶の会にボランティアの支援があり、顔馴染みの楽しみな催しとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議において、事例紹介や生活の様子を写真で見ながら説明を加えることで、認知症の理解や支援方法をお伝えしている。また、火災訓練にも参加頂き、実際認知症の方への声がけと誘導方法を体験して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域の代表者・家族代表・に委員となって頂き、その都度貴重な意見を頂いている。地域からの情報は外出の機会となり、市からの保険情報については、知識を得る機会となっており、そこでの意見、情報交換等をサービスの向上に活かしている。	事業所の活動状況・事故報告・ユニット毎のエピソードなど報告し、地域の構成員からは多くの情報提供を受け、意見交換や助言をもらいながら理解と協力が得られるよう努めている。また会議終了後避難訓練に参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議では市職員から、また地域包括センターに出向中の職員を通じて、市や他事業所の情報を得ている。また、芋煮会や忘年会にも参加頂き、家族や利用者と交流を図って頂いている。	市担当者は運営推進会議の構成員で事業所の実情や取組みに理解をもらい、入居時に関する相談や制度上の手続きなど情報や助言を得ている。法人職員が地域包括支援センターへ出向しており毎月の法人会議で情報報告を受けスタッフ会議で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人職員を対象とした身体拘束防止についての学習会に参加し理解を深めている。事業所の玄関には鍵をかけず、常に利用者一人ひとりの行動を把握し、声かけや見守りを行なっている。GH内で身体拘束適正化委員会を設け、3ヶ月毎に会議を開催している。現状について話し合い、内容についてはスタッフ会議で全職員に周知徹底している。</p>	<p>身体拘束適正化委員会を立ち上げ、拘束について細部に亘って委員会で話し合い、スタッフ会議で確認し共有している。職員は連携して利用者の行動や状態を把握し理由を理解して、行動を妨げないよう安全第一に支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「身体拘束をしないケアの実践」と同様、法人職員を対象とした学習会に参加し、理解を深めている。些細なことでも会議等で繰り返し話し合い、防止に努めている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人職員を対象とした、権利擁護やコンプライアンスについての学習会に参加し理解を深めている。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取り丁寧に説明している。特に利用料金や重度化、看取りについての対応、医療連携体制などについては詳しく話し、同意を得ている。入院に伴う退去についてや将来的な内容についても触れ、不安や疑問に答えられるようにしている。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人では3年に一度、アンケート調査を実施し、ご利用者や御家族の意見を頂いている。又、事業所玄関には「ご意見箱」を設置している。家族の来訪時や電話で頂いた意見等をスタッフ会議で検討し運営に反映させている。利用者の要望についても、日頃の会話の中から叶えられるよう心がけている。</p>	<p>利用者からは日頃の関わりの中で、家族からは家族会や来所時また家族アンケートで意見要望を伺う機会を設けている。玄関に当日の勤務職員の写真カードが貼られ、職員は気軽に話しやすい雰囲気心がけ、得た意見はミーティングノートで共有し速やかに対応している。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議にて事業所の決定事項を伝達し、職員の意見も聞いている。必要時には管理運営会議に反映する様にしている。いつでも法人への意見や要望を聞く準備がある事を職員へ伝え、話しやすい環境に努めている。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、人事考課システムを使用し、少なくとも年2回考課を実施することで、職員個々の状況を把握している。安全衛生委員会による労働環境の把握や是正、産業カウンセラーによる面接制度の採用により、メンタルヘルスへの対応についても配慮している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内階層別研修制度や国家資格取得に関する支援制度を活用し、職員が働きながら学べるよう工夫している。外部研修についても、社会福祉協議会主催の研修やGH協議会の交換実習、GH大会に参加等が出来るように配慮している。	全職員が職種・経験等により法人の階層別年間研修計画に沿って受講を必須としスキルアップを図っている。他に外部研修を希望し自己研鑽に励み、結果は伝達研修で共有している。国家資格取得時は日程調整や受験助成を設け介護力の向上を支援している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市主催によるセンター方式の研修会に参加する中で、演習等を通じ、他事業所職員との意見交換を行った。又、県GH協議会の定例会議や交換実習を通して事業所の見直しや視野の拡大に繋がっている。	県・置賜支部グループホーム連絡協議会の会議や研修会に管理者や職員が参加して交流し、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。テーマを掲げての派遣実習や交換実習受け入れは新たな気づきとなりケアに反映している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や実調、ホーム内見学等で本人の心配事や不安な面を理解するよう工夫している。家族から入居前にセンター方式シートに記入していただくことで、利用者の把握や信頼関係の構築に繋いでいけるようにしている。さらに自宅で使用していた馴染みの物を持参して頂き、安心出来るようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族との関係性も踏まえ、要望や困っていることを把握することによって、信頼関係を築けるように努めている。来訪時や電話などでも話せる機会を作っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意向を確認し、どのような支援が必要なのかを検討し、支援に繋げている。又、その内容については関係する職員で情報共有している。法人の総合相談センターとも連携し、状態に応じた支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の能力が発揮出来る様、負担にならない範囲で食事準備、洗濯物干しや畳み方等の作業を行って頂いている。一緒に行う事で昔ながらの知恵を教えて頂き、馴染みの関係と信頼関係が築けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回の近況報告と家族来訪時及び電話連絡等で状態を報告し、家族と情報共有をしている。利用者の思いを家族に理解頂き自宅に外出する機会を設けたり、入居10周年を迎えた利用者の御祝いを企画し、家族と共に御祝いをした。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域の中の観光地や行事に出掛け地域の方との交流を図っている。馴染みの美容院に出掛けたり、お正月やお盆には自宅へ帰り、家族や親戚と過ごされている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切に支援している。関係性が悪化し当事者の精神的なストレス軽減も考慮し、ユニット内での住替えを行った。又、良い関係性が継続していけるようにユニット内で訪問しあっている。時にはトラブルになることもあるが、職員が間に入り、対応している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態の変化などで入院や他施設に移られた方には会いに行き本人の様子を伺ったり、家族から話を聞き、必要な支援があれば都度、対応している。今年度、在宅復帰された方からの電話相談があり対応した。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中の会話やエピソードを記録に残し、職員間で共有し希望や意向の把握に努めている。家族からも情報を頂くようにしている。又、思いや意向を盛り込んだ企画として、利用者のやりたい事や行きたい所を叶える「特別な日」を設けている。	職員は日頃から多くを話しかけ反応を把握し、何気ないしぐさや表情から思いの汲み取りに心がけている。新たな情報や気づきは利用者毎に一目でわかりやすい様式を使って全員で共有している。本人中心の「特別な日」は最も笑顔に繋がる一日となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時に本人、家族から得た情報は個人記録にまとめ見やすいようにしている。又、家族に記入して頂いたセンター方式のシートを活用しながら馴染みの暮らしを把握しより良い支援に繋げるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けや関わりを工夫し、利用者が持つ力を発揮出来る様、支援している。一人一人の生活リズムを尊重し、思い思いに過ごして頂いている。体調の変化により食事、水分が進まない時はチェック表を用いて状況把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向に添って担当者が作成した原案を元に計画作成者が修正し、カンファレンスを開催し、ケアプランの作成をしている。3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価や見直しを行っている。状態に変化があった時は都度、見直しをしている。都合の付く家族にはカンファレンスにも参加して頂き意見をもらっている。	状態を把握し医療連携を図り情報提供しながら、生活の質の向上に向けて取り組んでいる。今年度から介護計画の話し合いに家族等に案内し、その人らしい・その人の特徴が見えるプランに、また現状を更に継続できるような計画に盛り込み作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画の実施状況等、エピソードを交え毎日記録に残している。出勤時は各自記録やミーティングノートに目を通し、情報収集を行っている。状態に変化がある場合には、24時間シートを使用し職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GH入居後も、一人ひとりの暮らしを支える地域資源を活用している。医療面における支援はこれまでのかかりつけ医を継続し受診は基本家族の付き添いを依頼している。その他、企業・地域ボランティアの協力を頂きながら地域の一員として暮らしていけるよう支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は日頃の様子を記入した連絡表を持参し、かかりつけ医には受診結果や指示を記入して頂いている。基本的には家族同行受診としているが、不可能な場合は職員が同行する支援も行っている。又、訪問診療を依頼しているケースもあり、複数の医療機関との関係を密にしている。	従来からのかかりつけ医を家族等の付き添いで受診し、定期的な往診を受けている方もいる。緊急時や依頼があった場合は事業所で対応し、いずれも受診連絡表で体調や精神面等の情報を医師・家族等と共有して連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人内の看護師と医療連携体制を取っている。毎日の介護記録や温度板で情報を共有している。状態に変化があった時は都度、報告相談し診てもらい状態に応じて受診に繋げている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、利用者の支援に必要な情報を医療機関に提供し、定期的に職員が見舞うようにしている。早期に退院できるように、家族と共に、医療関係者と面談させて頂き、情報交換や相談に努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に「重度化した場合の指針」についてご家族に説明し同意書を頂いている。、重度化した場合には、ご家族や主治医に相談し「看取り同意書」の取り交わしを行ない、ご家族、主治医、医療連携看護師と連携を密にし、話し合いの場を設けて、内容を記録し職員全員が情報を共有して支援を行なっている。看取り同意書の取り交わし後も、ご家族の意向を再確認し、不安や悩みなどが軽減出来るよう努めている。</p>	<p>「重度化した場合の指針」や「看取り同意書」に基づき、家族等の意向とこれからの方針を確認し支援にあたっている。職員は看取りの研修や経過の学習会、緊急時の訓練を行い、皆で支援体制を整えている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>外部研修に参加した職員より、伝達研修を行い事故発生や救急時の対応についての訓練を行っている。事業所内でも1～2ヶ月毎に昼夜想定で訓練を実施している。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人主導で年2回の火災訓練を実施している。事業所独自でも1～2ヶ月毎に昼夜を想定した訓練をしており、地域の2地区と災害協定を結び、協力体制を築いている。又、運営推進会議の際、委員の方に利用者の誘導を実践体験して頂いた。防災のマニュアル(火災、震災、水害)を整備を行い、定期的に確認しながら災害に備えている。</p>	<p>隣接する法人施設合同の避難訓練の他に、事業所単独で夜間緊急時対応や離脱、火災等の訓練も定期的実施して改善点など見直しに繋げている。また備蓄や非常時持ち出し袋を整備し、地域との協力体制も築いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は声かけや声のトーンに留意し、利用者のプライバシーを損ねないような対応を心がけている。出来ないことでもさりげない言葉かけを行いながら意欲がもてるような関わりに努めている。	法人研修や外部研修で認知症介護の理解を深め、利用者の尊厳や人格に心遣いできる職員育成に努めている。スタッフ会議やグループ(ユニット)会議で事例をあげながら話し合い、一人ひとりに合わせた関わりを心がけている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では利用者が主体となり、本人の思いや願いを表現出来る様に傾聴している。思いや表現が出来ない方には、今までの生活の中から思いを汲み取り支援している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、特に時間を区切らず利用者の思いやペース、その日の希望を尊重している。体調に配慮しながら、個性のある支援を行っている。利用者の生きがいや楽しみを情報共有しながら支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が愛用していたクリームを御家族に準備して頂き使用出来るように支援している。1日に何回も着替える方もおり、その人のこだわりやおしゃれな部分を大切にしている。床屋についても馴染みの床屋に行けるよう、御家族に協力を頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜や季節に合った旬の食材を使用し、職員と一緒に調理や盛り付け、片付けを行っている。希望や好みを伺い、苦手な物は代替品を提供している。誕生日には大好きな物を取り入れている。職員も同じテーブル楽しく食事している。	食事係がこれまでのメニューやバランス等を考えて献立を作成し、旬の物や差し入れ、主治医の指導にも対応して事業所で調理している。その方に合った食事の提供と誤嚥予防や形態にも配慮し皆で和やかに食している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに合った食事の提供を心掛け、体調や摂取状況に応じて都度、食事形態を工夫し、栄養バランスの確保に努めている。状態により法人STに嚥下状態を見てもらい、アドバイスを受けている。水分が摂れない方にはゼリーで対応したり、チェック表を用いて状態把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じて口腔ケアの声掛けや必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔を心掛けている。週2回、義歯洗浄剤を用いて洗浄もしている。口腔ケアの重要性については、肺炎予防の観点から重要であること認識を持っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりに合わせたトイレ誘導をしている。なるべく紙パンツを使用したくないという方には、綿パンツを着用頂き、本人の意思を尊重しながらトイレでの排泄を行っている。排泄介助の際は自尊心を傷つけないような配慮をしている。	一人ひとりに合わせた個別支援でレベルアップもしくは現状維持できるよう取り組んでいる。本人の意思を尊重しながら自尊心や羞恥心に配慮した対応に努め、排泄を記録して声掛けや誘導のタイミングに活用している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多い物や乳製品、オリゴ糖などを使用し便秘の予防に努めている。下剤については、排泄チェックを活用し便性を確認しながら過剰投与にならないように管理している。医療連携看護師の助言をいただき、腹部マッサージを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望する時間帯や体調に応じて入浴が出来るように支援している。入浴を拒む時には利用者の意思を尊重し、時間を変えて誘う等の対応をしている。入浴の時間が心身の安らぎとなるよう職員自身も、気持ちに余裕を持って臨んでいる。入浴が出来ない場合には清拭を実施している。	夜間以外はいつでも入浴可能で朝に意向を聞いて入りたい方に入ってもらっている。寒くなると拒否する方が多くなるので部屋を暖めてスムーズな入浴に繋げ、職員は利用者を主体にした体制で介助に取り組んでいる。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人なりの生活リズムを崩さないことを基本に、日中の活動を取り入れ、安心して穏やかな日常が送られるよう配慮している。眠れない方には側で寄り添いながら温かい飲み物を提供し、おしゃべりをする等の支援をしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果や副作用についてはお薬の説明書で確認することを習慣づけている。処方の変更された場合は、受診時連絡表からの医師の指示事項や家族からの情報により確認している。服用後の状態変化について観察し、必要があれば医療連携看護師や医師と連絡を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話の中から情報を収集し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように心掛けている。一人一人の興味のあること、楽しみ等を見つけてプランに取り入れることで、自分らしくいられるように支援している。又、特別な日を企画し、気分転換の支援を行っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出し、食事や買い物等をされる方もいる。馴染みの理容院で散髪される方もいる。又、希望に添って散歩やドライブに出掛け、気分転換を図っている。遠出が無理な方は、天気の良い日は外に出て気分転換を図っている。ボランティアの協力を得て、地域の行事やお祭り、季節の花を鑑賞するバスハイクを企画する等の外出支援を行っている。	花見見学などのバスハイキングは行事担当が年間計画しており、地域の外出ボランティアの協力を得て車椅子の方も一緒に楽しい外出となっている。また当日でも行きたい方が行きたい所に出かける「ちょっと行ってきます」は希望が叶う嬉しい取り組みとなっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方には家族や本人の希望でGHで管理している。希望に応じて使用できる様に支援している。支払いの際も本人に行ってもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が出来る様に支援している。手紙のやり取りを行っている方はいないが、毎年、家族や友人に年賀状を出している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアからは山や畑の野菜が見え、季節感が感じられるようになっている。テーブル、洗面所には花等を飾り、穏やかな雰囲気作りに努めている。又、職員も環境の一部であることを認識し、音や言動に配慮している。利用者一人ひとりの価値観を大切にしながら、居心地の良い空間づくりに努めている。	共用空間は動線の整理整頓を心がけ、リビングの洗面台の鏡はカーテンで目隠しして視界的に落ち着けるように工夫している。自然環境に恵まれ季節の変化を感じながら思い思いこだわりの場所で過ごし、冬期間は和室の掘りコタツに集まり皆との談笑を楽しんでいる。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やフロアにソファを置き、一人でゆったり過ごしたり、気の合う方と会話出来るようにし、居心地良い居場所作りを工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物や家具、日用品、思い出の物などを身の回りに置き、落ち着ける居室づくりをしている。音楽が好きな方にはカセットデッキを置き、テレビを観る習慣がある方にはテレビを設置している。ベットは個々の状態に配慮した配置にし、居心地良く過ごして頂けるようにしている。	在宅時の暮らし方を確認して、なるべくそれに近い形で使い慣れた物や落ち着ける配置に設え居心地よく過ごせるようにしている。また空気清浄器を備え室温にも配慮し快適に暮らせるように努めている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かりやすいように名前や案内を明示している。ホーム内は歩行の妨げにならないよう、安全に配慮している。洗面所には個々の洗面道具置き場を設け、自力で身だしなみが整えられるようにしている。			